ホッケー部門競技要項（セカンドディビジョン）

１．参加資格

 日本学生氷上競技連盟加盟校のうち、各地区の最終予選において出場権を得ることのできなかったチームの中で、予選会において最も上位の成績を収めたチーム8校（北海道１、東北１、北信越１、関東１、中部１、関西１、中四国１、九州１）

２．出場制限

(１)ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小１名、最大２名。プレイヤー最小１０名、最大２０名とし、ゴールキーパー１名を含み総勢１１名未満のチームは出場資格を持たない。

(２)試合に際して、登録された責任者(チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等)が不在の場合は、試合放棄と見なしその試合は没収される。ベンチ入りスタッフは最小１名、最大６名とする。スタッフとは監督・コーチとして(公財)日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。

(３)外国籍学生の出場は１校につき２名以内とする。

(４)学生ドアマンについては、本大会登録選手・マネージャーが２名以内でベンチ入りすることができる。その際には必ずフルフェイスマスクのついたヘルメットを着用しなければならない。

またドアマンもスタッフ含む。

３．競技方法

(１)上記８校によるトーナメント戦により１位～３位を決定する。

(２)試合は正味２０分×３ピリオドで行なう。インターバルは、１０分とする。

 タイムアウト(３０秒)は全試合、各チーム１回使用できるものとする。

(３)第３ピリオド終了時点において同点の場合、国際アイスホッケー連盟スポーツ規定に定められる「ペナルティー・ショット・シュートアウト」(PSS)の方式に従うが、５名ではなく３名による「ペナルティー・ショット・シュートアウト」により勝敗を決定する。この場合３名のノミネートは不要で、リンクサイドは片面だけを使う。なお、３名で決着がつかない場合はタイ・ブレイク方式(サドンデス)で行い、タイ・ブレイクへ入ったら、同じ選手が何回続けてショットしても良い。

(４)練習時間は、1、２回戦は７分間、決勝戦は１０分間。

(５)日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び大会事務局の定めるローカルルール以外は、2018年に改定された国際アイスホッケー連盟の定める国際競技規則及び同スポーツ規定による。

４．秋季代表者会議において各地区のトーナメントの位置を抽選で決定する

５．１～３位に賞状を授与する。

　優勝したチームの所属する地区には、次年度の参加チーム１枠を増加する。

※各地区予選に関してもこの要項に準じて行うものとする。